

西山遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第137集



2005

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



にしやま

西山遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第137集

平成17年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、中山間総合整備事業ふじの里東部地区に先立って財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、西山遺跡の調査成果をまとめたものです。

西山遺跡は、広大な庄内平野の東部、山形県東田川郡藤島町に位置しています。藤島町は、平野部と月山から北西に広がるなだらかな丘陵部をかかえ、米作りのほか、柿などの果樹栽培が盛んに行われています。遺跡の所在する添川地区は、平野部と丘陵部が接する場所にあり、古くから人々に快適な生活環境を提供してきました。付近では西山遺跡をはじめ、縄文時代以降多くの遺跡が残されています。

今回の発掘調査では、縄文時代と平安時代の遺構や遺物がみつかっていますが、須恵器や赤焼土器といった器類のほか、掘立柱建物跡や柱列などが検出され、特に平安時代の集落の様子が明らかとなりました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 日野 雅夫

本書は、中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区に係る「西山遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は山形県農林水産部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

出土遺物、調査記録類は、報告書作成終了後、山形県教育委員会に移管する。

調査要項

遺跡名	西山遺跡
遺跡番号	1736
所在地	山形県東田川郡藤島町大字添川字西山54-4他
調査委託者	山形県庄内総合支庁産業経済部酒田農村整備課
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
理 事 長	日野 雅夫
受託期間	平成15年4月1日～平成17年3月31日
現地調査	平成15年8月21日～9月26日
調査担当者	調査第一課長 野尻 優 主任調査研究員 黒坂雅人(調査主任) 主任調査研究員 須賀井新人 調査員 小林 啓
調査指導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室
調査協力	山形県教育庁庄内教育事務所 藤島町教育委員会

凡　例

- 1 本書の作成・執筆は、黒坂雅人、小林 啓が担当した。
- 2 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（測地成果2000）により、高さは海拔高で表す。また、方位は座標北を表す。
- 3 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S B…掘立柱建物跡・掘立柱列	S K…土坑	S D…溝跡
S P…ピット	E B…掘立柱建物柱穴	R P…登録土器・土製品
- 4 本文中の遺物番号は、実測図・観察表と共に通するが、写真図版は別番号とした。対応は観察表に示した。
- 5 遺構・遺物実測図の縮尺、網点等の用法は各図に示した。
- 6 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」に掲った。
- 7 発掘調査および本書を作成するにあたり、松井敏也、青山 崇の両氏からご協力、ご助言をいただいた。
- 8 委託業務は下記のとおりである。

遺構写真実測業務

株式会社アジア航測

目 次

I 調査に至る経過 ······	1
II 遺跡の立地と環境 ······	2
1 地理的環境 ······	2
2 歴史的環境 ······	2
III 調査の経過 ······	6
IV 遺跡の概観 ······	7
V 遺構と遺物 ······	18
1 検出された遺構 ······	18
2 出土した遺物 ······	22
VI 調査のまとめ ······	26
報告書抄録 ······	卷末

表

表1 掘載遺構上層注記 ······	21	表2 遺物観察表 ······	25
--------------------	----	-----------------	----

図 版

第1図 地形分類図 ······	3	第9図 遺構配置図(2) ······	14
第2図 遺跡位置図 ······	4	第10図 遺構配置図(3) ······	15
第3図 分布調査概要図 ······	8	第11図 遺構配置図(4) ······	16
第4図 試掘溝平面図(1) ······	9	第12図 遺構配置図(5) ······	17
第5図 試掘溝平面図(2) ······	10	第13図 検出遺構(1) ······	19
第6図 調査区概要図 ······	11	第14図 検出遺構(2) ······	20
第7図 試掘坑上層断面図 ······	12	第15図 出土遺物(1) ······	23
第8図 遺構配置図(1) ······	13	第16図 出土遺物(2) ······	24

写真図版

写真図版 1 1区調査開始前の状況他	写真図版12 1区南平全景他
写真図版 2 遺跡近景	写真図版13 2区27・28・38~41区完掘状況
写真図版 3 調査区全景	写真図版14 2区26・27・35~37区完掘状況
写真図版 4 S B98調査状況他	写真図版15 2区26~32~34区完掘状況
写真図版 5 S B98完掘状況他	写真図版16 2区17~20~22~24区完掘状況
写真図版 6 S B99E B 4土層断面他	写真図版17 2区北端抜張区完掘状況
写真図版 7 S B99完掘状況	写真図版18 楔文土器・調片
写真図版 8 1区T P 2土層断面他	写真図版19 石核・石器
写真図版 9 T T 4 遺構検出状況他	写真図版20 赤焼土器(1)
写真図版10 T T 6 他	写真図版21 赤焼土器(2)
写真図版11 布掘作業他	写真図版22 須恵器

I 調査に至る経過

西山遺跡の緊急発掘調査は、山形県農林水産部が計画した「中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区」に係る「柿里3号線」農道改築工事に先立って実施されたものである。

中山間地域総合整備事業は、文字通り中山間地域の農業振興をはかることを目的として、農道整備などを主体に山形県農林水産部が企図した公共事業である。このうち、ふじの里東部地区は、藤島町添川地区の南西部丘陵地帯の果樹園や畑地が主な対象域となる。山形県教育委員会では、その着工に先立ち、事業の実施が予定される区域について、既知の遺跡の具体的な内容把握と未発見遺跡の有無を確認するための表面踏査や、事業の進捗に伴った試掘調査など、数次にわたる現地調査を実施し、山形県農林水産部と調整がなされてきた。

初回の現地調査は、平成11年11月9日に実施した農道柿里4号線、農業集落道藤九郎清水線の計画路線および周辺の表面踏査である。柿里4号線関連では、既知の遺跡である鶯畠B遺跡、新規登録となる西山3遺跡と2箇所の遺跡可能性地が計画路線にかかることが確認されたほか、路線に隣接して西山2遺跡、鶯畠山古墳1号、鶯畠山古墳2号の3遺跡が新規発見された。鶯畠山古墳1号・2号はそれぞれ新田古墳、西山古墳として平成11年度に登録されたが、藤島町教育委員会からの要請で平成13年度に遺跡名が変更された(山形県教委2003)。藤九郎清水線では、路線内に藤九郎清水A遺跡がかかり、藤九郎清水D遺跡が路線に隣接することが確認されている。

翌平成12年9月20日・21日、山形県教育委員会は、柿里1～6号線、藤九郎清水線、堀越東線について再度の表面踏査を実施した。調査では、計画路線上に4箇所の遺跡可能性地を抽出したほか、路線外に大西山古墳を新規発見した。西山遺跡はこの調査の際に現地確認がなされ、繩文土器片や石器剥片類、須恵器片、赤焼土器片などを採集している。

西山遺跡の試掘調査は、柿里3号線着工の具体化にともない、平成15年5月13日～16日の日程で実施された。調査は事業地区内に幅約1.5mのトレンチを14箇所設定し、重機により地山面まで掘り下げをおこない、遺構の有無を確認した。これらのうち10箇所のトレンチで遺構、遺物の存在が確認され、路線が遺跡内を通過することが確実となった(第3図～第5図、写真図版9・10)。なお、この期間内に遺跡可能性地3～6の試掘調査もあわせて実施され、遺跡可能性地4が新地遺跡として新たに登録された。

この結果を踏まえ、山形県教育委員会では、山形県農林水産部と遺跡の保存について協議を重ね、施工により破壊を免れない部分は、記録による保存を目的とした緊急発掘調査をおこなうことになった。

以上のような経験をもって、財團法人山形県埋蔵文化財センターでは、山形県農林水産部からの委託を受けて、平成15年8月21日から9月26日の期間で、遺跡が路線にかかる部分約1,560mを対象として緊急発掘調査を実施するに至った。なお、現地調査終了後の遺構記録と遺物の整理作業および報告書作成作業は平成15年度、報告書の印刷製本は平成16年度におこなわれている。

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

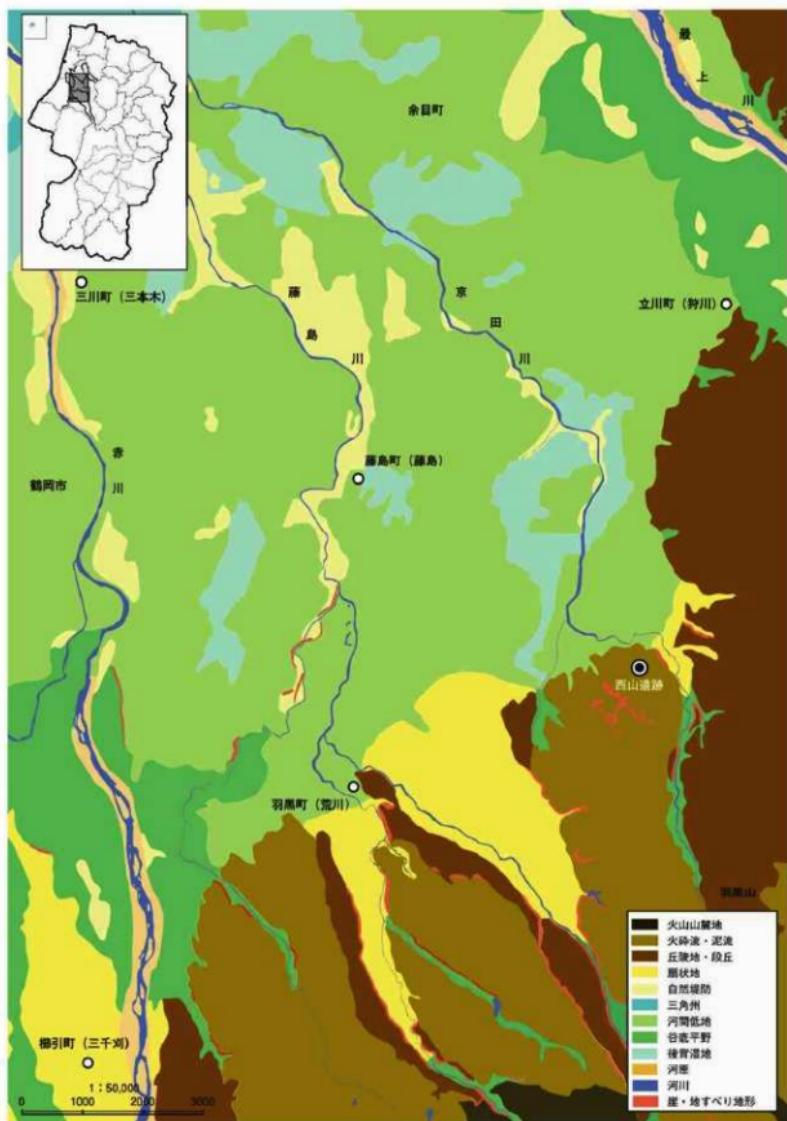
山形県の北西部に位置する庄内地方は、県全体の面積の約25.7%にあたる2,403㎢を占める。西は日本海の海岸線が続き、北は出羽富士と呼ばれる鳥海山の裾野で秋田県と区切られ、東から南にかけては、鳥海山から月山、さらに朝日山系へと続く出羽山地によって内陸地方および新潟県と隔てられる。その間に広がる庄内平野は、面積約530㎢、山形県を横断して日本海に注ぐ最上川と、出羽山地に源を発する大小の河川が運ぶ土砂により形成された日本有数の均平原をもつ広大な沖積地である。庄内平野は、内陸部に比べて気温の年較差および日較差が小さく、冬季の降雪量も少ないため、年間を通じて過ごしやすい気候条件をもつ。しかし、冬季の北西の季節風は非常に強く、往々にして地吹雪を伴う。農業は稲作・柿・砂丘地でのメロン栽培など多岐にわたるが、特に水稻は391㎢に作付けされ、一大穀倉地帯となっている。

西山遺跡は庄内平野と出羽山地が接する、東田川郡藤島町添川地区に位置し、月山山系から北に張り出しが京田川と藤島川にはさまれた泥流台地の末端部付近に立地している。標高は約40mを測る。地目は柿を主体とした果樹園、畑地のほか、雑木林も多く残る。台地は概ね陥しくはないが、小さい沢が複雑に入り組み、起伏に富んだ地形を呈する(第1図)。

2 歴史的環境

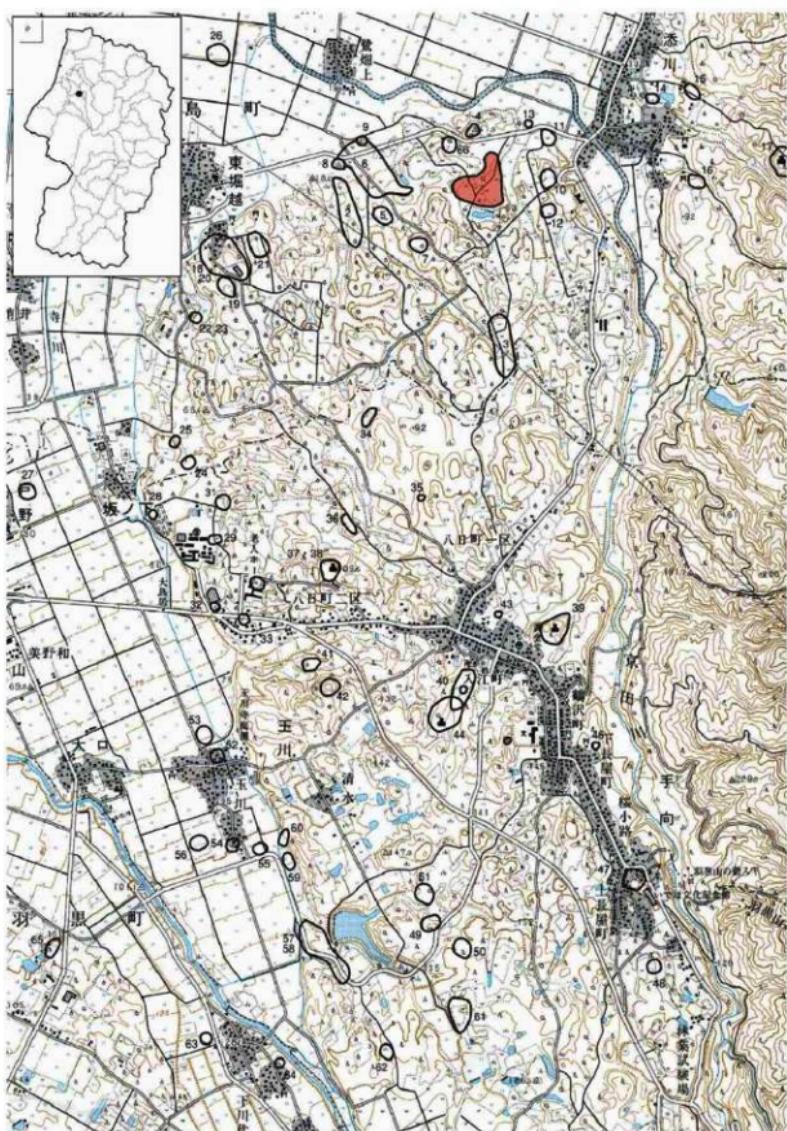
西山遺跡が立地する泥流台地は、藤島町と羽黒町にまたがって張り出している。ここには第2図に示したように、現在60箇所以上の遺跡が確認されている。現在登録されている遺跡は藤島町65箇所、羽黒町132箇所であり、その3割以上がこの区域に集中する。その分布状況は、西側を流れる藤島川上流の扇状地に接する縁辺付近および北辺部分に密に分布し、東辺の京田川に面するところや中央付近は疎な傾向が見て取れる。これらは旧石器時代の遺物包含地から中世の城館跡まで、広範囲な内容をもつが、半数以上が縄文時代の遺跡である。山岳や丘陵と平地が接するこの地は、古くから人々にとって快適な生活環境にあったことを想起させる。

羽黒町玉川の遺跡群(第2図52~61)は、旧石器時代から縄文時代の遺跡として本県の学史的に有名である(羽黒町教委1973)。また、郷の浜J遺跡(33)は、県道鶴岡羽黒線の道路改築工事にともなって山形県教育委員会により昭和55年に緊急発掘調査が実施され、北陸地方的な要素をもった縄文時代前期末葉から中期初頭の土器群の存在が確認された(山形県教委1981)。西山遺跡の西北西約1.5kmの水田中に所在する石欠遺跡(26)は、団体営圃場整備事業に先立ち、昭和55年に藤島町教育委員会によって発掘調査された。調査は部分的なものに限られたが、平安時代の須恵器、赤焼土器や祭祀に関わる盛土遺構のほか、古式土師器の存在が報告された(藤島町教委1981)。また台地北辺部には、鶯畠山古墳1号・2号(8・9)、添川古墳(13)、大西山古墳(66)、の4基の古墳が登録されている。庄内地方では非常に発見例の少ない古墳の集中と石欠遺跡との関連が注目される。



第1図 地形分類図

II 遺跡の立地と環境



第2図 遺跡位置図（国土地理院発行2万5千分の1地形図「羽黒山」を使用）

番号	登録番号	種別	名 称	時 代	所 在 地	現 状	立 地	備 考
1	1736	遺物包含地	西山遺跡	平	藤島町添田西山54-4	煙地	丘陵	
2	II-11登録 敷石地	西山2遺跡	純、平		藤島町添田西山	煙地・果樹園	丘陵	縣埋文報201
3	II-11登録 無落跡	西山3遺跡	純		藤島町添田西山	煙地・果樹園	丘陵	縣埋文報201
4	1737	墳墓	西山墳墓	平	藤島町添田西山4-15	山林	山上	高さ1.5m径5 mの円墳状
5	1725	遺物包含地	常磐八遺跡	純	藤島町鶴西町4-1-18地	煙地	台地	
6	1726	遺物包含地	常磐1A遺跡	純、平	藤島町鶴西町4-1-25地	煙地	丘陵	縣埋文報201
7	1727	遺物包含地	常磐1C遺跡	純	藤島町鶴西町4-3	煙地	台地	
8	II-11登録 古墳	鬼瀬山古墳1号	古		藤島町鬼瀬新田	墓地・果樹園	丘陵	前方後円墳・縣埋文報201・202
9	H-11登録 古墳	鬼瀬山古墳2号	古		藤島町添田西山	墓地・果樹園	丘陵	円墳・縣埋文報201・202
10	1731	遺物包含地	新地八遺跡	純	藤島町添田新地9-9	煙地	台地	
11	H-15登録 遺物包含地	新地1C遺跡	純		藤島町添田新地	煙地・果樹園・墓地	丘陵	
12	1728	寺跡	中山寺魔守寺	平	藤島町添田中山91	煙地	台地	藤島町教委1982
13	1728	古墳	添田1C墳	古	藤島町添田新田9-11	墓地	丘陵・光畠	
14	1728	遺物包含地	添田1A遺跡	先	藤島町添田新田代3地	煙地・水田	平地	
15	1729	遺物包含地	添田1B遺跡	純	藤島町添田米山216	煙地	丘陵・光畠	
16	1730	遺物包含地	添田1C遺跡	純	藤島町添田米山218-1	煙地	丘陵	
17	1733	塗	添田塗	中	藤島町添田	山林	山腹	縣中核城館延番号423-002
18	1738	遺物包含地	藤丸郡添木A遺跡	平	藤島町東幡越木A遺跡40-1	煙地	台地	藤島町教委1992・縣埋文報27・201
19	1740	遺物包含地	藤丸郡添木B遺跡	平	藤島町東幡越木B遺跡	煙地	台地	
20	1741	遺物包含地	藤丸郡添木C遺跡	純	藤島町東幡越木C遺跡	煙地	台地	
21	1742	遺物包含地	藤丸郡添木D遺跡	純	藤島町東幡越木D遺跡272集	煙地	丘陵	縣埋文報27・201
22	1743	遺物包含地	郷の浜A遺跡	純	藤島町東幡越木浜7-15	煙地・水田	台地	
23	1744	遺物包含地	郷の浜B遺跡	平	藤島町東幡越木浜7-15	煙地・水田	台地	
24	1745	遺物包含地	郷の浜E遺跡	苏	藤島町東幡越木浜8-2	煙地	台地	
25	1746	遺物包含地	野川1遺跡	水田	藤島町東幡越木浜8-2	水田・煙地	平地	
26	1747	遺物包含地	石川1遺跡	平	藤島町東幡越木石川24	水田	平地	藤島町教委1981
27	1768	着物包含地	八幡山遺跡	純(中)	羽黒町八幡山15地	水田	平地	縣埋文報1
28	1770	遺物包含地	郷の浜C遺跡	純	羽黒町坂の下300	学校敷地	台地	
29	1771	遺物包含地	郷の浜D遺跡	平	羽黒町手向農業街198-24	煙地	台地	
30	1772	遺物包含地	郷の浜E遺跡	平	羽黒町手向農業街198-271地	煙地	台地	
31	1773	遺物包含地	郷の浜日遺跡	純	羽黒町手向農業街198-231	煙地・水田	台地	
32	1774	遺物包含地	郷の浜J遺跡	平	羽黒町手向農業街198-223	煙地	台地	
33	1775	遺物包含地	郷の浜J遺跡	純	羽黒町手向農業街198-202	煙地	台地	縣埋文報50
34	1777	遺物包含地	地記典道跡	純	羽黒町手向808	水田	台地	
35	1778	墳墓	五輪山墳墓	平	羽黒町手向五輪山56	山林	山上	
36	1779	遺物包含地	枯渇渓水遺跡	純	羽黒町手向枯渇渓水69	煙地	台地	
37	1780	遺物包含地	枯渇渓水遺跡	純	羽黒町手向53-1	荒廃地	台地	
38	1781	橋	般若橋	中	羽黒町手向	造園地	台地	縣中核城館延番号424-004
39	1782	船	黑丸船	中	羽黒町手向	山林	高台	縣中核城館延番号424-009
40	1783	墳墓	尉官百穴道跡	平	羽黒町手向施の頭	墓地・山林	丘陵・斜面	
41	1784	遺物包含地	百人臼遺跡	平	羽黒町手向日本73地	煙地	台地	縣埋文報61
42	1785	遺物包含地	高森遺跡	純(後)	羽黒町手向百臼4日202地	煙地・原野	台地	縣埋文報61・74
43	1786	墳墓	御前林遺跡	平	羽黒町手向御前林175	煙地	丘陵・光畠	
44	1787	廟	中 勅 鎮	中	羽黒町手向	山林	丘陵・谷部	縣中核城館延番号424-005
45	1788	墳墓	引導塚墓	平	羽黒町手向茅草陵谷地157-2	山林・煙地・荒地	丘陵	縣埋文報84
46	1788	祭祀跡	黒沢山二塚	京	羽黒町手向黒沢山22-1	原野	高台	
47	1790	寺跡	下毘沙門史觀闕跡	跡	羽黒町手向7	宅地	山麓	
48	1800	遺物包含地	院内1遺跡	純	羽黒町手向院内83-5	煙地	台地	
49	1805	遺物包含地	小川沢A遺跡	純(晚)	羽黒町手向小川沢34-14	山林	台地	縣埋文報74・84・118・163・194
50	1806	遺物包含地	小川沢B遺跡	純(晚)	羽黒町手向小川沢7-120	山林	台地	縣埋文報74・84・118・163・194
51	H-4 登録	散布地	小川沢C	純	羽黒町手向小川沢	煙地	台地	縣埋文報194
52	1807	遺物包含地	玉川1遺跡	純	羽黒町玉川字玉川12地	宅地	平地	羽黒町教委1973
53	1808	集落跡	玉川1遺跡	純	羽黒町玉川1-2下1	水田	平地	羽黒町教委1973
54	1809	遺物包含地	玉川1B遺跡	純	羽黒町玉川玉川17	宅地・水田・煙地	平地	羽黒町教委1973・縣埋文報74・84
55	1810	集落跡	玉川1B遺跡	純	羽黒町玉川玉川17	水田	平地	羽黒町教委1973・縣埋文報74
56	1811	集落跡	玉川1C遺跡	純	羽黒町玉川白山前42	水田・原野	平地	羽黒町教委1973・縣埋文報74
57	1812	遺物包含地	玉川1D遺跡	純(中初)	羽黒町玉川袋井235	煙地	台地	羽黒町教委1973・縣埋文報74・153
58	1813	遺物包含地	玉川1D遺跡	旧	羽黒町玉川袋井235	煙地	丘陵	羽黒町教委1973・縣埋文報74
59	1814	遺物包含地	玉川1E遺跡	純	羽黒町玉川山の下23	水田	山麓	羽黒町教委1973・縣埋文報74
60	1815	遺物包含地	玉川1F遺跡	純	羽黒町玉川袋井	水田・社寺	山麓	羽黒町教委1973・縣埋文報74
61	S58登録	集落跡	玉川G	純	羽黒町玉川	煙地・荒地	丘陵	羽黒町教委1973・縣埋文報74
62	1816	遺物包含地	上川遺跡	純	羽黒町玉川東端山174	水田	山麓	縣埋文報84
63	1822	遺物包含地	下川代A遺跡	純	羽黒町玉川西端山102-27	水田	山麓	
64	1823	遺物包含地	下川代B遺跡	純	羽黒町下代牛代109-130	宅地	山麓	
65	1833	遺物包含地	川代F山遺跡	純	羽黒町川代牛代山385	烟地	台地上	
66	H-11登録	古墳	大西山古墳	古	藤島町大字西山大西山	雜木地	台地	文化財第900号

III 調査の経過

現地調査は、平成15年8月21日から同年9月26日の実働24日間にわたり、柿の防除の日程に合わせて調査区を二分し、南半部分(1区)を先に調査し、その後、北半部分(2区)の調査という手順でおこなった。以下にその概要を述べる(第6図 写真図版11)。

8月21日

器材の搬入、事務所内整理、調査区全体の草刈作業などの環境整備をおこなう。

8月22日・25日

調査区の草刈り等の環境整備を進める一方、1区の範囲決定のための布掘り作業を人力でおこなった。

8月26日～29日

26日から1区の重機による表土剥ぎ取り作業を実施する。南端部から開始して27日で終了する。また、重機による表土剥ぎ取りが終了した部分から面整理作業にはいる。造構検出作業は27日から本格化し、29日までに終了する。写真撮影の後造構精査を開始。

9月1日・2日

1日から1区の造構精査を実施し、2日までにはほぼ完掘する。その間土層断面や土層注記、写真撮影などの記録作業を平行しておこなう。2日から2区の範囲決定のための布掘り作業を開始する。

9月4日・5日

2区の布掘り作業を継続、5日までに終了する。また、4日に1区の清掃作業の後、業務委託による空中写真測量を実施した。5日は重機による1区の埋め戻しおよび現道の復旧作業をおこない、当日に終了する。

9月10日～12日

10日から2区の重機による表土剥ぎ取り作業を開始し、11日までに終了する。表土剥ぎ取りが終了した部分から面整理作業を実施し、12日に終了する。

9月16日～19日

16日から2区の造構精査を開始する。各造構は、断面観察および記録の後、完掘作業を実施する。記録作業では17日から2区全体の平面略図の作成にはいり19日に完了する。また、調査区全体に1×1mの試掘坑を設定し、地山以下の状況を調査する。

9月22日・23日

造構精査を継続、23日に業務委託による空中写真測量を実施した。

9月24日

調査説明会を開催する。平日ではあったが33名の参加者があった。

9月25日・26日

25日に残りの記録作業を終了し、重機による埋め戻し作業を実施し、当日中に終了する。26日に器材搬出し、現地調査を終了する。

IV 遺跡の概観

西山遺跡の範囲については、昭和53年発行の「山形県遺跡地図」では、ため池の北側に隣接して東西80m、南北100mの規模で括られていたが、平成12年に実施された山形県教育委員会による分布調査の結果(文化財第900号)から、北に範囲が拡大され南北280mとなった。なお添付された図上では東西方向も230mに拡大され、概ね鉤形を呈する面積約30,000m²の集落跡であることが確認された(第2図)。今回の発掘調査は、遺跡範囲内を南北に縦断する現農道とその拡幅部分が対象となり、長さは範囲の南北長とほぼ同じ260m、幅7m前後、面積1,560m²について実施した(第6図)。

調査区内の土層の堆積状況を確認するため、7箇所の試掘坑を設定し、地山以下まで深掘りを実施した(第7図 写真図版8)。現況では緩やかな起伏が連続し、よく自然地形を保っているようにみえたが、現在の農道部分ばかりではなく、果樹園や畑地の造成に際して表土がかなり動いていることが明らかとなった。TP1・TP3~7における表土は、暗褐色またはにぶい黄褐色のシルトが主体で、下層のシルトが大小のブロック状に混じる。層厚は15~20cmと薄く、遺構確認面となる2層との境界は、漸移せず明瞭に区分される。1区の北半以北では、尾根筋に乗っていることもあって、地山上面まで削平が及んでいるものと考えられる。

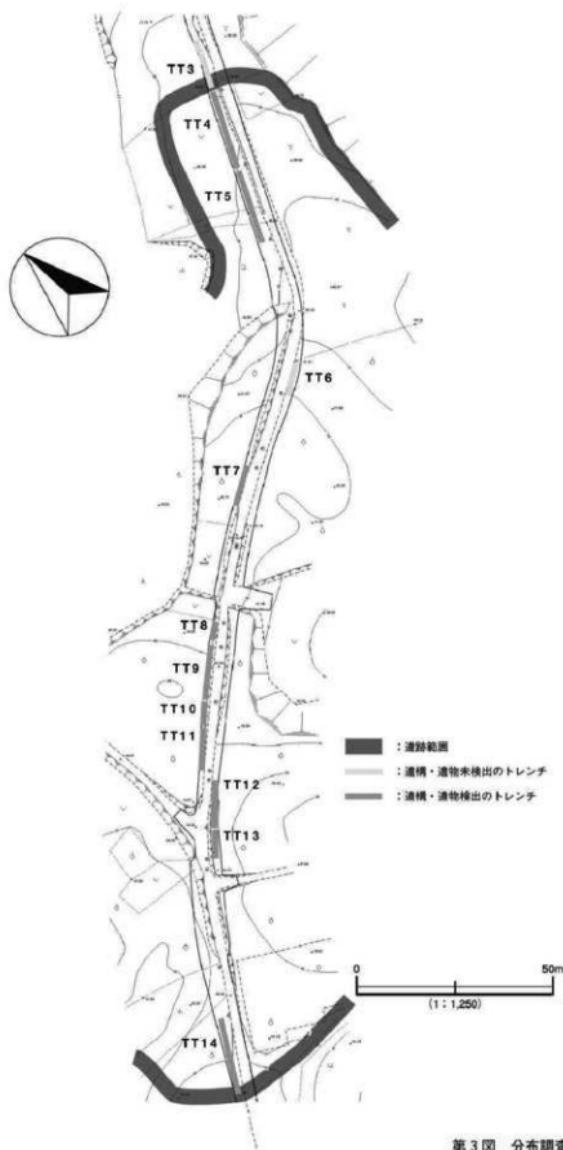
TP2付近を中心とする1区南半では、南西に向かって比較的急に傾斜しているために削平を免れしており、黒褐色および黒色のシルトが層厚約70cmにわたって堆積し、漸移層(3層)をはさんで地山に至るプライマリーな堆積状況が観察された。

遺構確認面は、褐色または明褐色のシルトで硬くしまっている。それ以下の状況は、地表下1m付近までの掘り下げでは、地点によって1から4層に区分された。いずれの地点でもほぼ安定して堆積しているが、下層にいくほど粘性が増し、また風化礫の混入が目立ってくる。

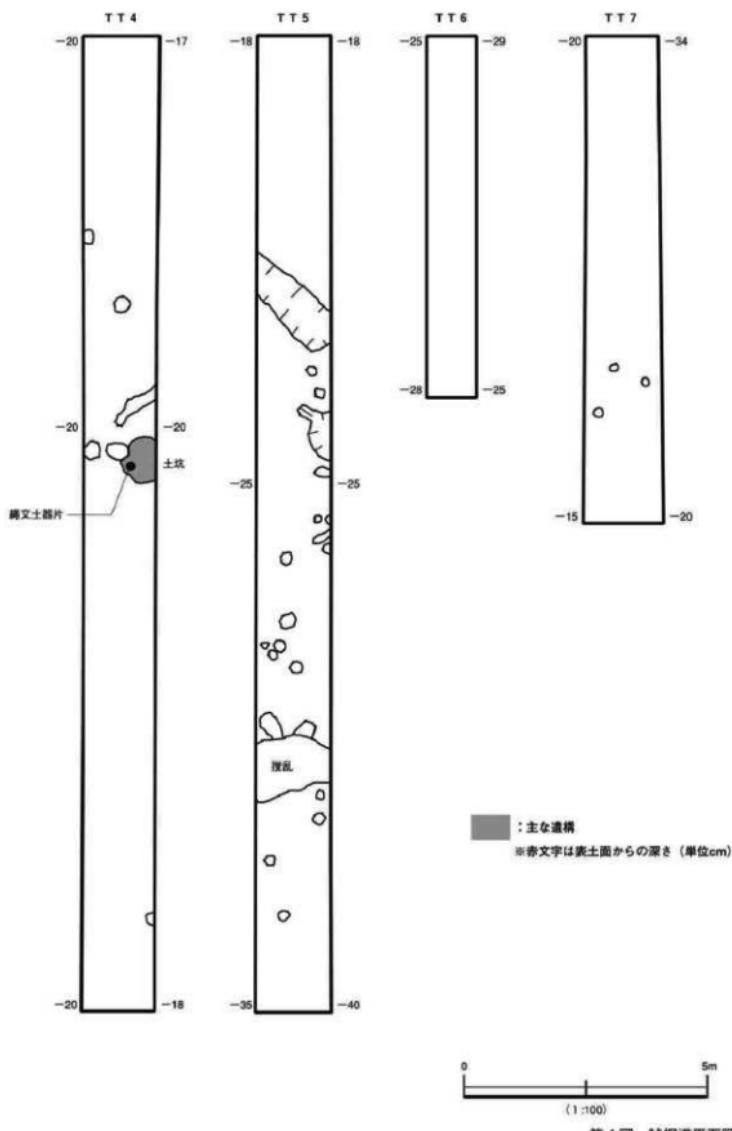
遺構は調査区全体に分布する。調査範囲が小規模なため、集落全体の構造を明らかにすることはできなかったが、相対的に1区より2区の密度が濃い。(第8図~第12図 写真図版13~17)。また、先に述べたように後世の削平によって浅い遺構が破壊されている可能性がある。1区では、直径10~30cm、深さ15~30cm程度の規模を持ったビットが主体となる。各ビット間の関係は間隔、方向ともに一定せず、建物跡等の施設と認められたものはない。SK1、SK2などのやや大形の土坑も検出されたが、性格は不明である。

2区でも1区と同様なビットが主体となるが、特に18~20~24~26区では土坑の分布が密である。2区の北半では、いずれも部分的な検出ながらSB98掘立柱建物跡およびSB99柱穴列を確認した。これらを構成する柱穴は、掘り方もしっかりとしており、アタリが明瞭に観察されたものが多い。また、SB99付近には、これらと同様な構造を持ったビットが数基検出されており、他の建物跡が存在した可能性がある。

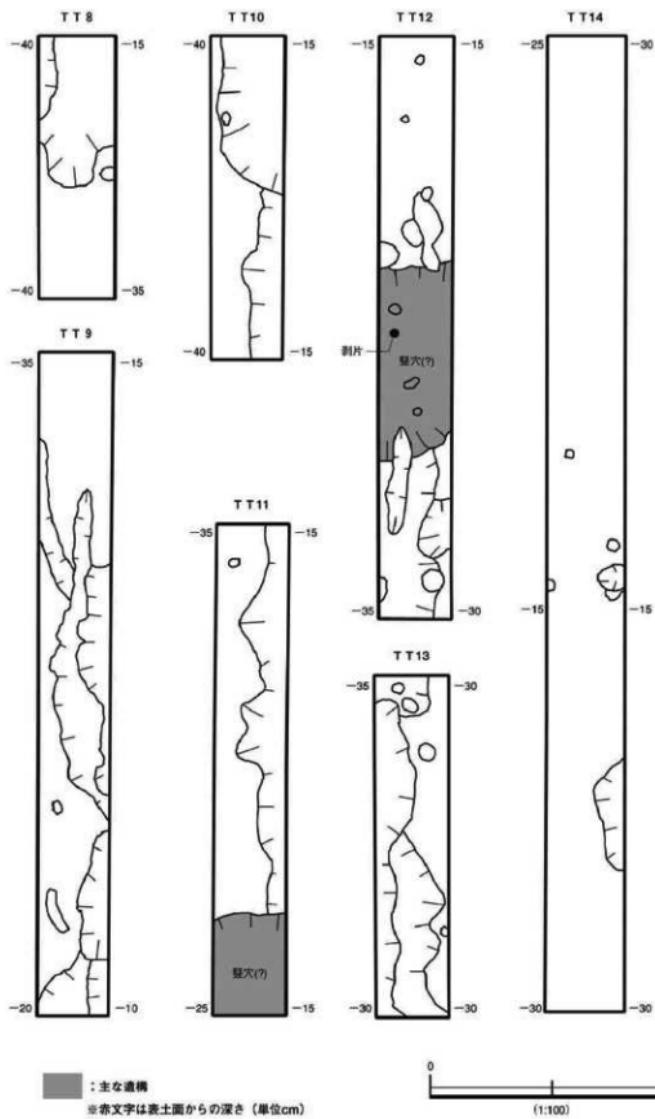
遺物は、繩文土器、石器、赤焼土器、須恵器が整理箱で2箱出土した。数量的に少なく、大半が面整理中に出土したものであるが、その分布状況は遺構の分布とほぼ一致している。遺構内出土遺物も摩滅したものが多く、その遺構の所属時期を示唆するものはごく少ない。



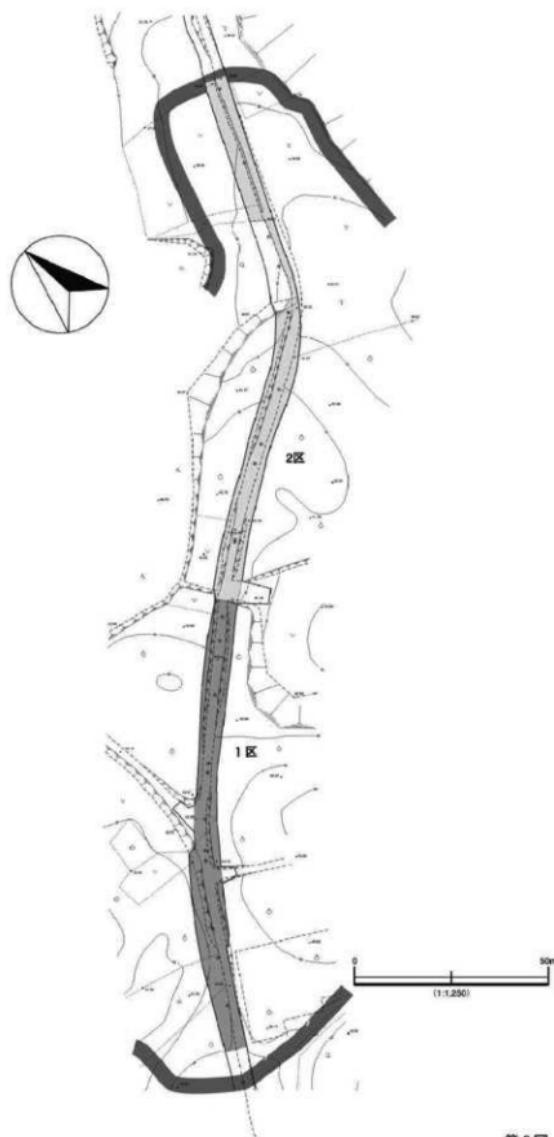
第3図 分布調査概要図



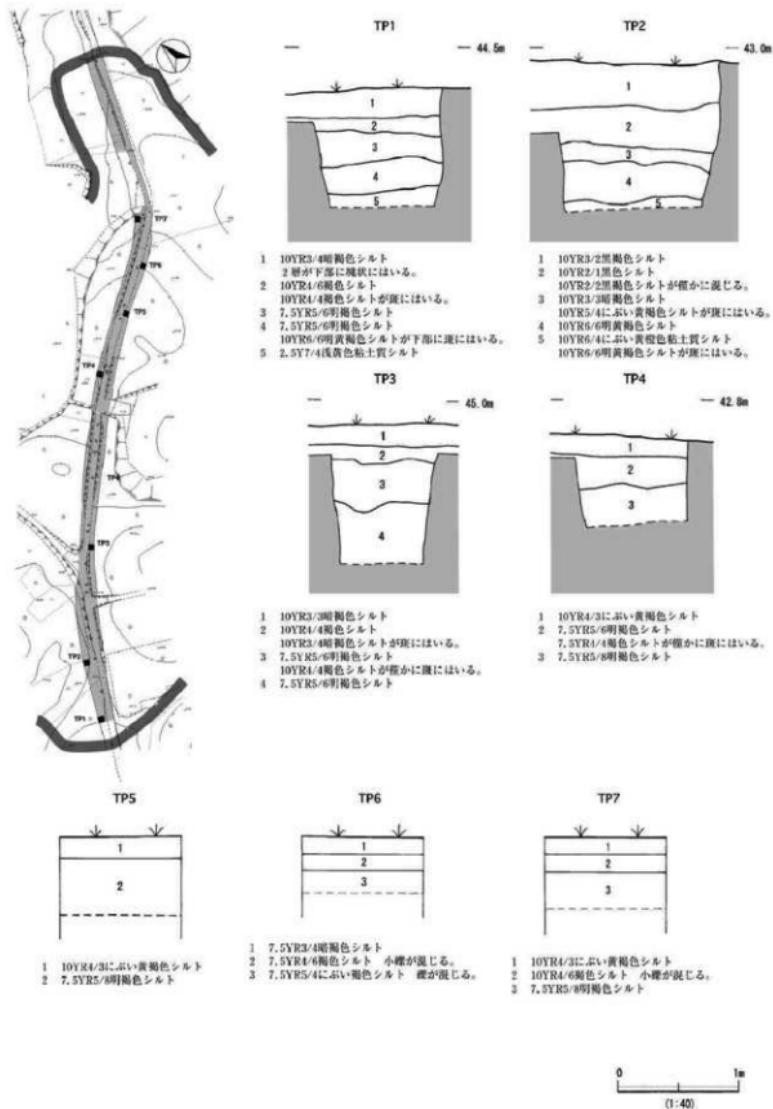
第4図 試掘溝平面図(1)



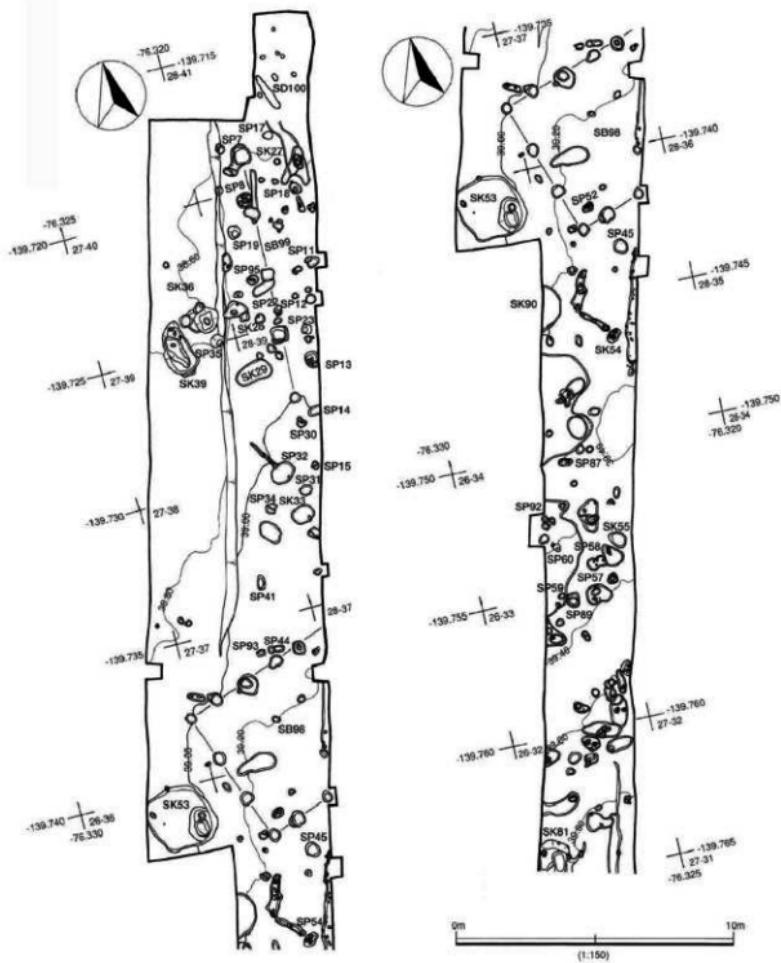
第5図 試掘溝平面図(2)



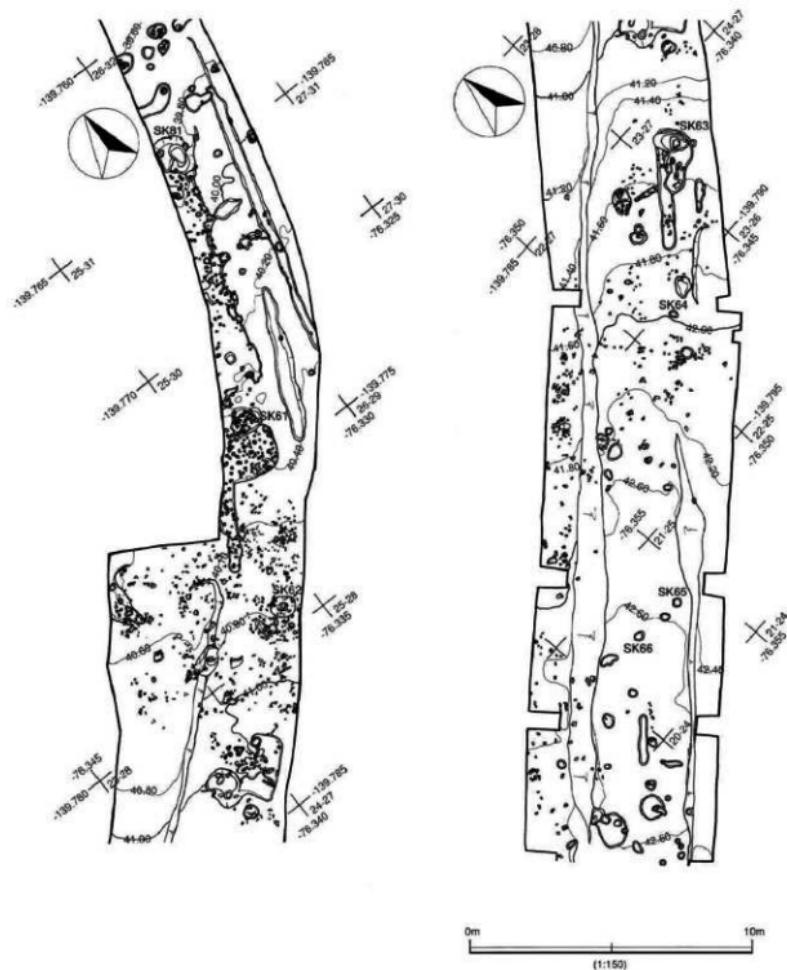
第6図 調査区概要図



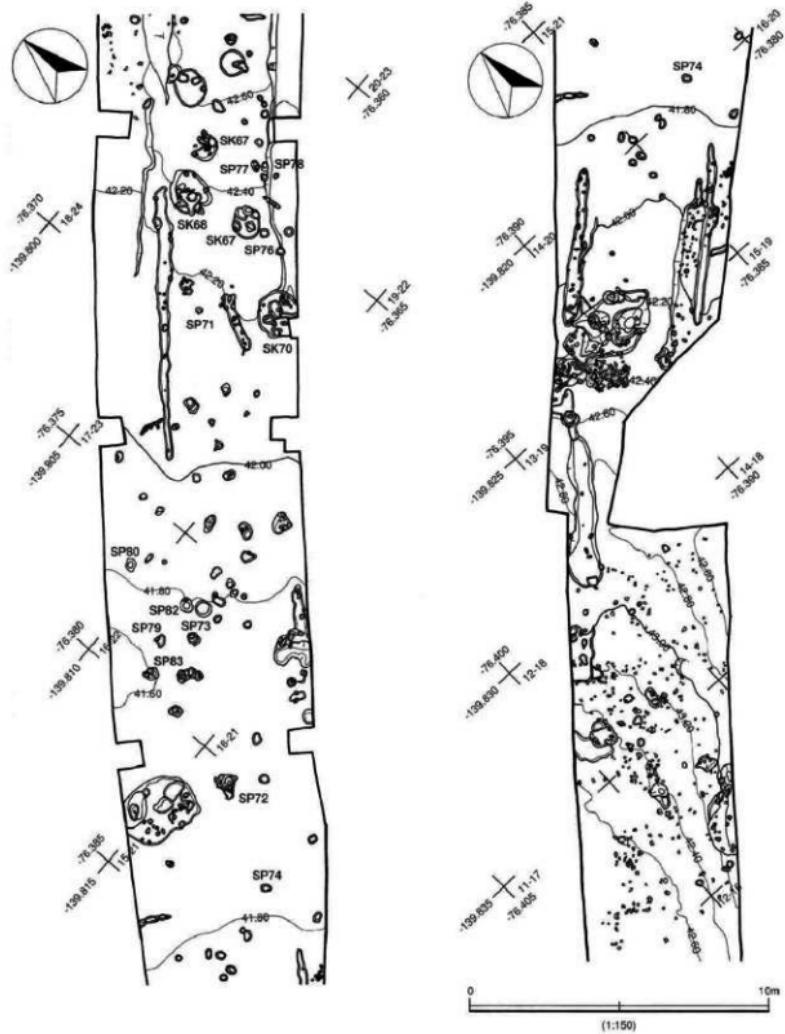
第7図 土層柱状図



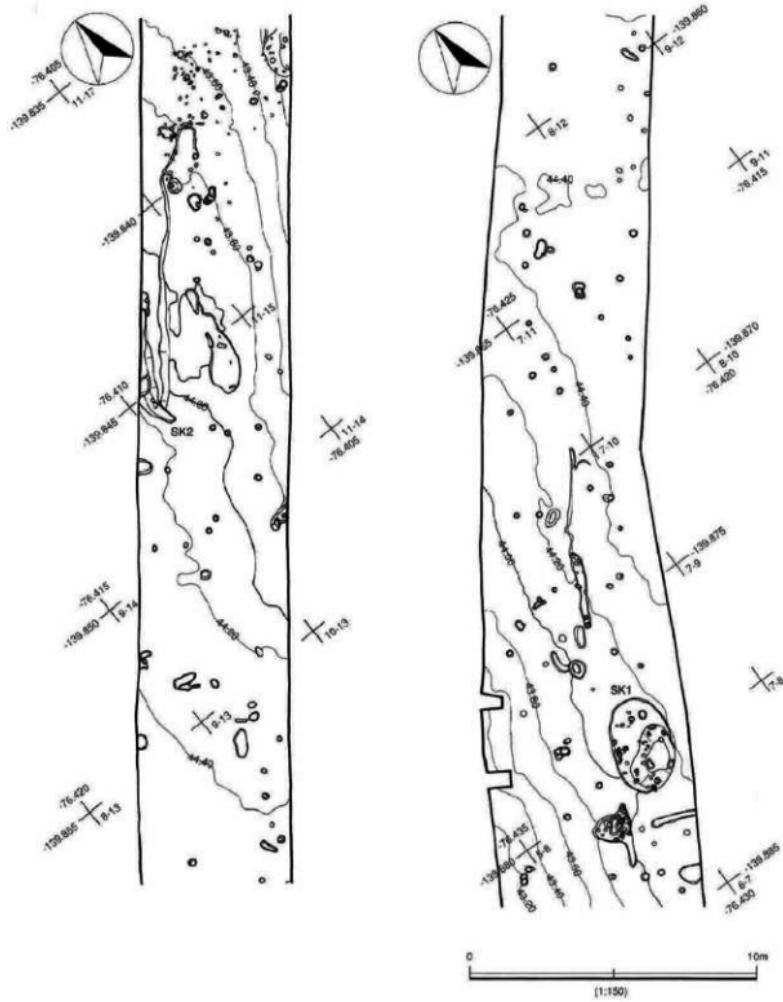
第8図 遺構配置図(1)



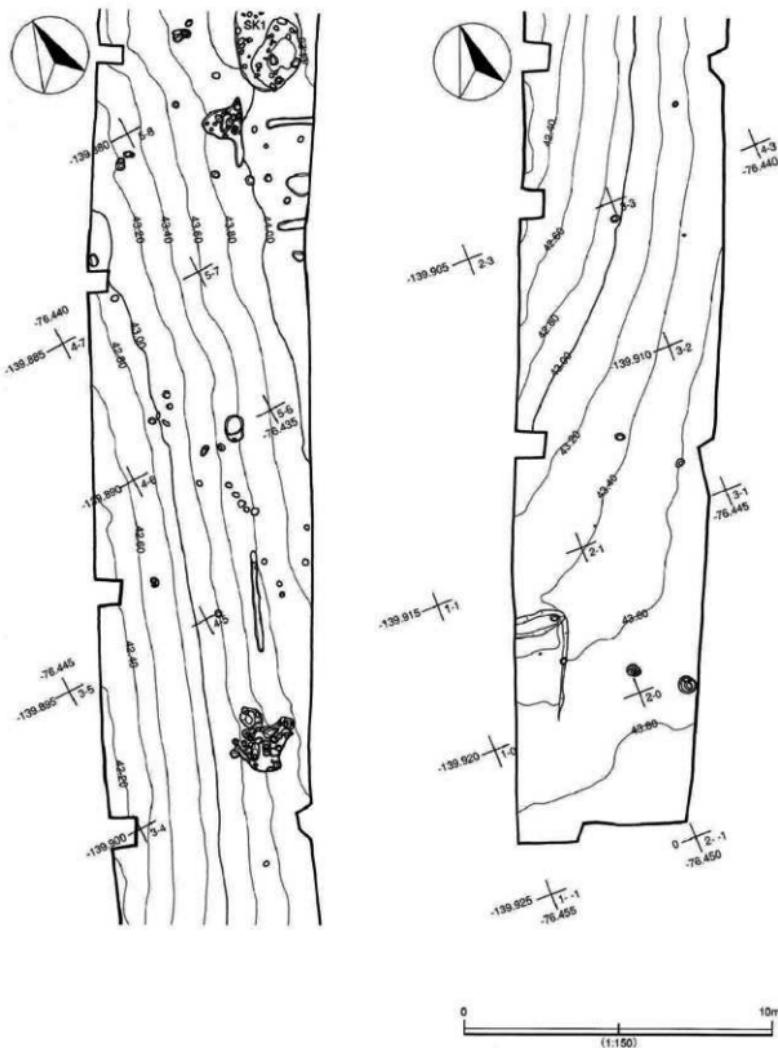
第9図 造構配置図(2)



第10図 造構配図(3)



第11図 造跡配置図(4)



第12図 遺構配置図(5)

V 遺構と遺物

1 検出された遺構

今回の調査で検出された主な遺構は、掘立柱建物跡1棟、柱穴列1基である。そのほか多数のビットが検出されたが、建物跡として相互関連が確認されたものはない。土坑は、SK36・39(第8図27-39・40区)、SK53(第8図26-36区)で層位の逆転がみられ、倒木痕であることが確認されたほかは、いずれも時期、性格ともに不明である。以下では掘立柱建物跡、柱穴列および主なビットについて記述する。

SB98(第13図 写真図版4・5・14)

2区北半26・27・36・37区で検出された掘立柱建物跡である。東側は調査区外となり、正確な規模は把握できないものの東西棟の建物と推定される。平面プランは東西4.5m以上、南北5mの長方形を呈するものと考えられる。柱穴は10基検出され、梁行3間、桁行4間以上を構成するが、EB43・50・94については構築時の補助柱の可能性がある。柱穴の平面形は径40~60cmの不整円形や楕円形となり、確認面からの深さは25~50cmの規模をもつ。いずれも柱痕は依存していない。直径20cm前後のアタリが観察されたものが多い。柱穴から遺物は出土せず、所属時期の認定は困難であるが、建物の構造ならびに付近の遺物出土状況から平安時代の所産と考えられる。

SB99(第14図 写真図版6・7・13)

2区北端部28-39-41区で検出された柱穴列である。ほぼ南北方向に軸線をもつ。6基の柱穴が一直線に配置され、このうちEB26~EB6間は2.3mの等間隔となる。SP30は同一軸線上にあるが、浅く間隔も違うため遺構因子には組み入れていない。柱穴の平面形は、不整隅丸方形が主体となる。規模は最大のEB26で長軸長78cm、確認面からの深さ56cm、最小のEB6で最大径42cm、深さ14cmである。遺物は、EB5から縄文土器片、EB4から赤焼土器坏、EB3から須恵器壺の破片が出土している。これらの状況から本柱穴列は平安時代の所産と考えられる。

SP7(第8・14図 写真図版13)

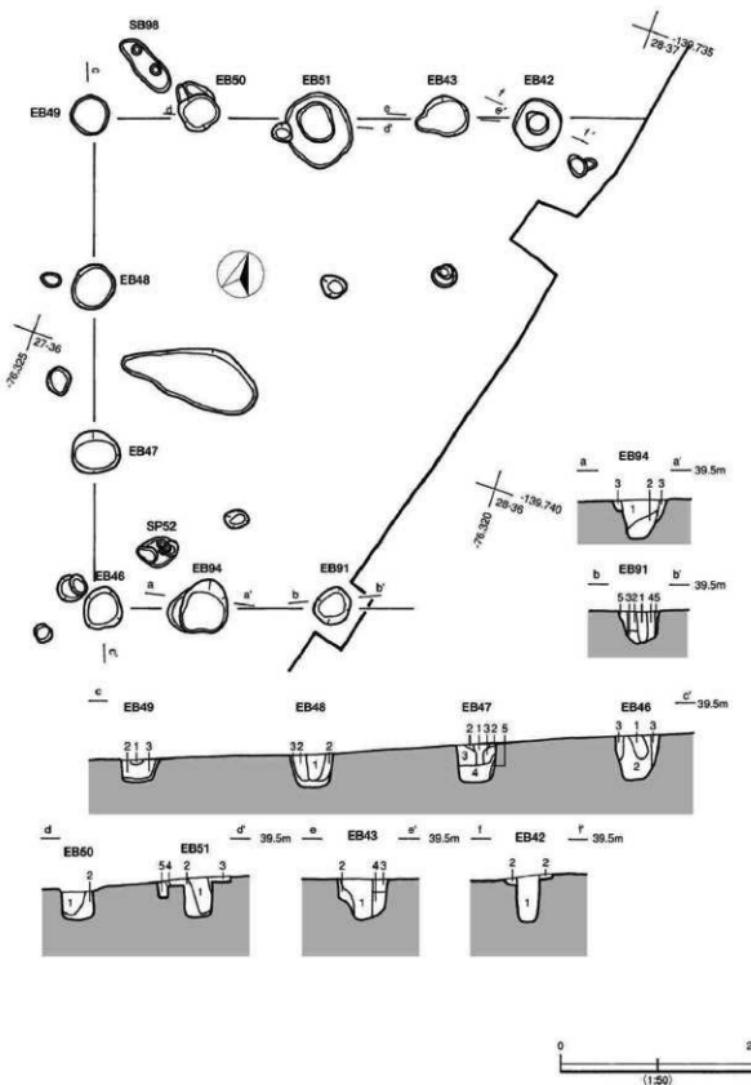
2区北端部28-41区で検出された。SB99EB26の西に隣接する。長軸長40cmの不整楕円形を呈し、確認面からの深さ18cmを測る。中央にアタリ(抜取痕)が確認された。遺物は出土していない。

SP8(第8・14図 写真図版13)

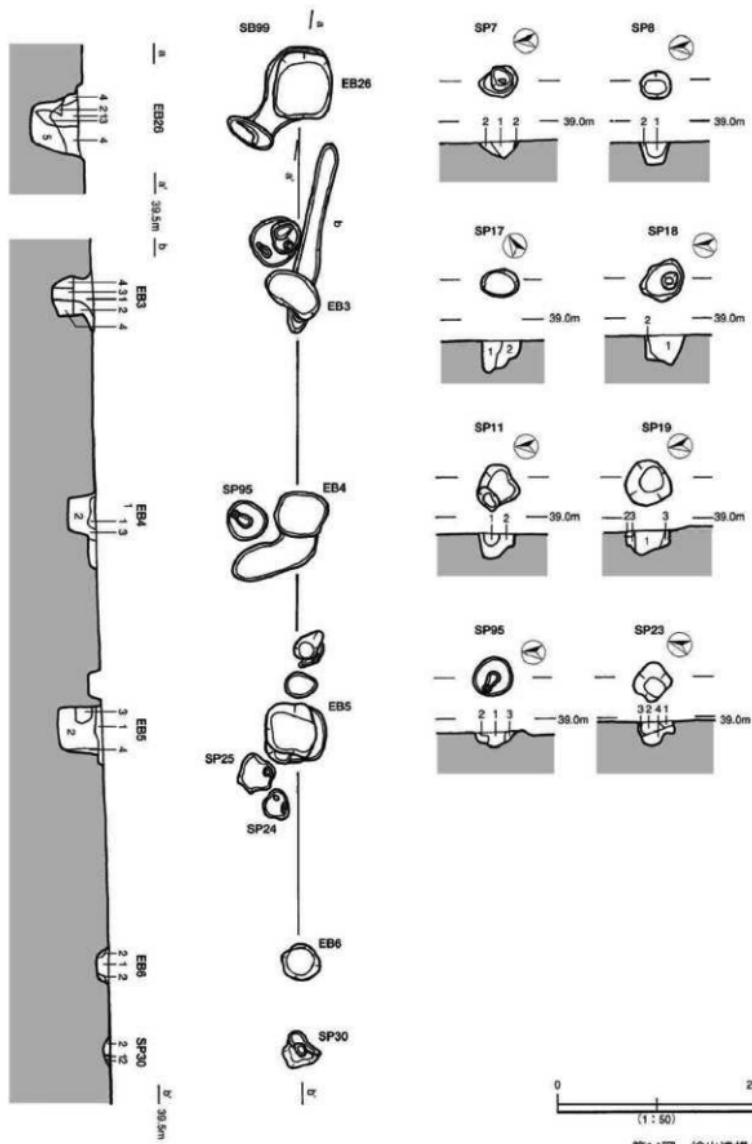
2区北端部28-41区で検出された。SP7の南1.5mに所在する。長軸長32cmの不整楕円形を呈し、確認面からの深さ23cmを測る。遺物は出土していない。

SP17(第8・14図 写真図版13)

2区北端部28-41区で検出された。SB99EB26の東1mに所在する。長軸長40cmの楕円形を呈し、確認面からの深さ32cmを測る。西半部分に径20cmのアタリが確認された。遺物は出土していない。



第13図 検出造構(1)



第14図 検出遺構(2)

表-1 掘載遺構土層注記

SB8

EB94

- 1 10YR4/6褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルトが僅かに斑に混じる。
2 10YR3/3暗褐色シルト
3 10YR4/6褐色シルト 濁りのある地山土。

EB91

- 1 10YR2/4暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが塊状にはいる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR4/3にい黄褐色シルト
4 10YR4/3にい黄褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが塊状に斑に混じる。
5 10YR4/6褐色シルト 濁りのある地山土。

EB49

- 1 10YR3/3暗褐色シルト
2 10YR4/4褐色シルト
3 7.5YR5/6明褐色シルト 濁りのある地山土。

EB48

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 10YR3/2黒褐色粘土が塊状に一部はいる。
2 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 7.5YR4/4褐色シルト 濁りのある地山土。

EB47

- 1 10YR2/2黒褐色シルト 10YR5/4にい黄褐色シルトが小塊状にはいる。
2 10YR4/3にい黄褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR4/6褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。
4 10YR3/3暗褐色シルト
5 7.5YR4/4褐色シルト 濁りのある地山土。

EB46

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 腐化粘土か、小塊状の10YR4/4褐色シルトが混じる。
2 10YR4/3にい黄褐色シルト
3 10YR4/4褐色シルト

EB50

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 腐化物が僅かに混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 7.5YR5/6明褐色シルトが小塊状にはいる。

EB51

- 1 10YR2/4暗褐色シルト 腐化物が僅かに混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR4/4褐色シルト
4 10YR4/4褐色粘土シルト
5 10YR2/3暗褐色シルト ピット覆土。

EB43

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR4/4褐色シルト
3 10YR4/4褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。
4 10YR4/3にい黄褐色シルト

EB42

- 1 10YR2/4暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR4/4褐色シルト

SB99

EB26

- 1 10YR2/4暗褐色シルト 10YR2/3黒褐色シルト、腐化物が僅に斑に混じる。
2 10YR2/3黒褐色シルト
3 10YR2/2暗褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトが小塊状にはいる。
4 10YR3/3暗褐色シルト 腐化粘土か、小塊状の10YR4/4褐色シルトが混じる。
5 10YR2/2黒褐色シルト 腐化物と10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。

EB8

- 1 10YR4/4褐色シルト 積くしまる。
2 10YR4/3にい黄褐色シルト 腐化物、10YR5/6黄褐色シルトが僅かに斑に混じる。
3 10YR3/3暗褐色シルト 腐化物が僅かに含む。
4 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。

EB4

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルトが小塊状に僅かにはいる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルトが塊状にはいる。
3 10YR4/4褐色シルト 10YR3/3暗褐色シルトが小塊状にはいる。SK10面上。

EB8

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 腐化物が混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 腐化物、10YR4/6褐色シルトが小塊状にはいる。
3 10YR4/6褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。
4 7.5YR5/6明褐色シルト 濁りのある地山土。

EB8

- 1 10YR4/4暗褐色シルト 腐化物が僅かに混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。

SP30

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 10YR5/4褐色シルトが斑に混じる。

- 2 10YR4/4暗褐色シルト

SP7

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/6褐色シルトが塊状にはいる。
2 10YR4/4褐色シルト 10YR4/3にい黄褐色シルトが斑に混じる。

SP8

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 7.5YR5/6明褐色シルトが小塊状にはいる。
2 7.5YR5/6明褐色シルト 濁りのある地山土。

SP17

- 1 10YR3/3暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR3/4暗褐色シルト 10YR4/4褐色シルトが僅かに斑に混じる。

SP18

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 7.5YR5/6明褐色シルトが小塊状にはいる。
2 7.5YR5/6明褐色シルト 濁りのある地山土。

SP11

- 1 10YR3/4暗褐色シルト 腐紋、10YR4/6褐色シルトが僅かに斑に混じる。
2 10YR5/6黄褐色シルト

SP19

- 1 10YR2/3暗褐色シルト 腐化物がごく僅かに混じる。10YR4/6褐色シルトが塊状にはいる。
2 10YR4/6褐色シルト
3 10YR5/6黄褐色シルト

SP95

- 1 10YR2/4暗褐色シルト 10YR2/3暗褐色シルトが斑に混じる。
2 10YR3/6褐色シルト 10YR3/4暗褐色シルトが斑に混じる。
3 10YR4/4褐色シルト
4 10YR3/4暗褐色シルト 腐化物混じる。

SP23

- 1 10YR2/1黑色シルト
2 10YR3/4暗褐色シルト 腐化物混じる。10YR4/3にい黄褐色シルトが僅かに混じる。

- 3 10YR4/4褐色シルト

- 4 10YR3/4暗褐色シルト 腐化物混じる。

SP18(第8・14図 写真図版13)

2区北端部28~40区で検出された。SB99EB 3 の東1.8mに位置する。長軸長50cmの不整楕円形を呈し、確認面からの深さ30cmを測る。底面の南寄りに径20cmの円形の浅い落ち込みが確認された。硬くしまっておりアタリの痕跡をとどめるものとみられる。遺物は出土していない。

SP11(第8・14図 写真図版13)

2区北端部28~40区で検出された。SB99EB 4 の東1.8mに位置する。一辺45cmの不整隅丸方形を呈し、確認面からの深さ30cmを測る。底面西寄りに長径30cmの浅い落ち込みが確認された。遺物は出土していない。

SP19(第8・14図 写真図版13)

2区北端部28~40区で検出された。SB99EB 4 の南西1mに位置する。径46cmの不整円形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。遺物は出土していない。

SP95(第8・14図)

2区北端部28~40区で検出された。SB99EB 4 の西に隣接する。径46cmの不整円形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。遺物は出土していない。

SP23(第8・14図 写真図版13)

2区北端部28~40区で検出された。SB99EB 5 の東1mに位置する。長辺40cm、短辺32cmの不整隅丸長方形を呈し、確認面からの深さ25cmを測る。遺物は出土していない。

2 出土した遺物

縄文土器(第15図1~9 写真図版18)

9点出土した。1~2はSP93(第8図27~37区)覆土内から出土した深鉢の破片で、口唇部に棒状工具による斜め方向からの連続した刺目がはいるほかは地文のみが施される。3はSK 2(第11図10~5区)から出土した鉢形土器の体部破片、5~9はSB99EB 5 の覆土内から出土した同一個体とみられる深鉢の体部破片である。

石器・剥片(第15図10~12 写真図版18・19)

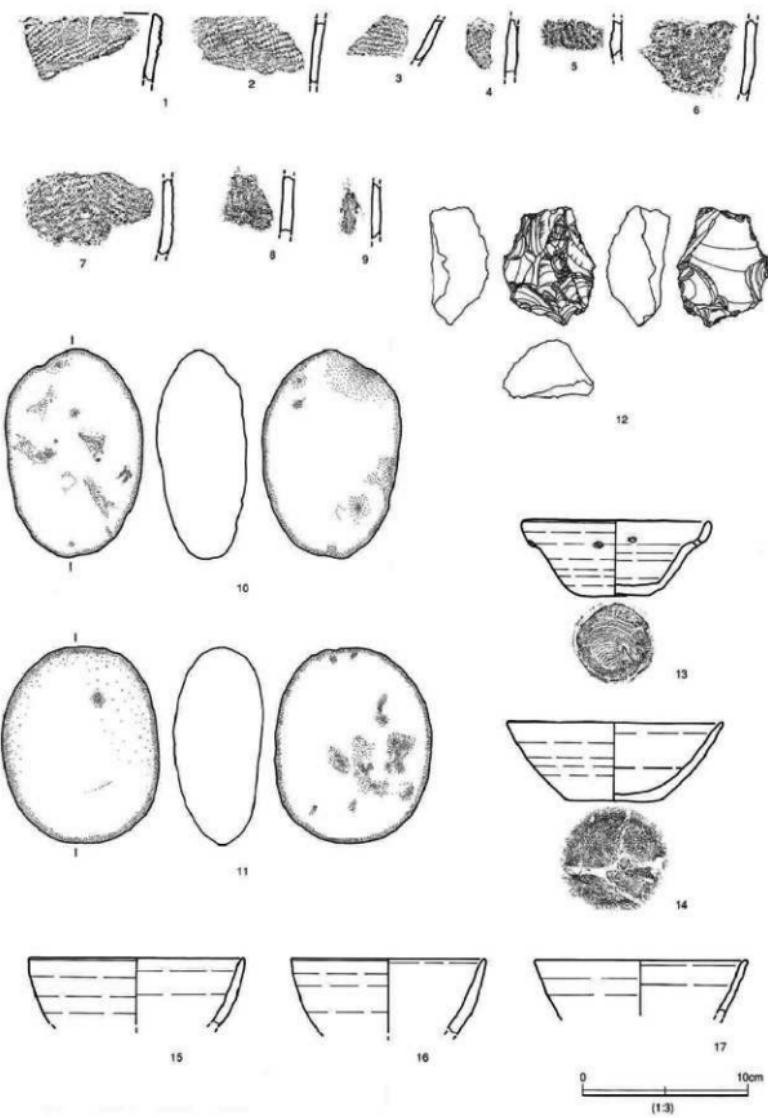
磨石2点、剥片素材の石核1点、剥片7点が出土した。

赤焼土器(第15図13~17・第16図1~12 写真図版20・21)

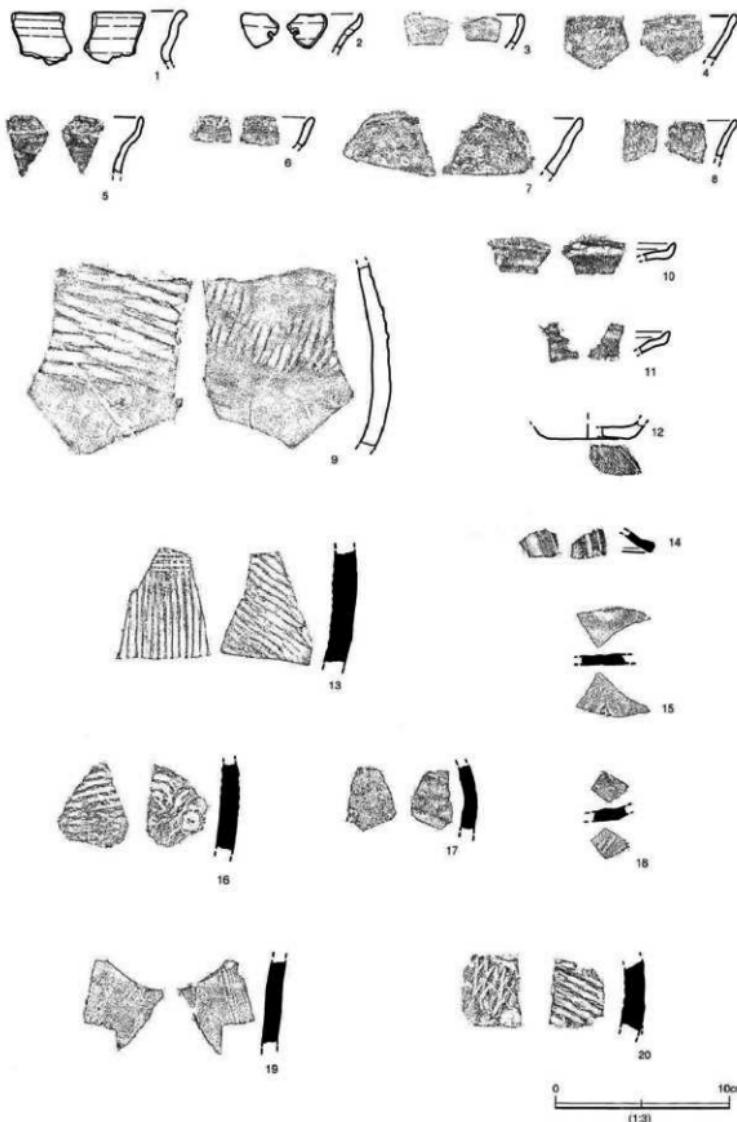
赤焼土器は数量的に最も多く出土しているが、摩滅が著しく圓化できなかったものが多い。器種は壺および甕が確認できる。第15図13はSP92(第18図26~34区)から出土した壺である。焼成前に頸部の3箇所に穿孔されており、また、内面に煤の付着がみられることから、吊るして使用する灯明皿と考えられる。14はSB99EB 4 覆土上面からの出土である。摩滅が顕著であるが底部切り離しが回転系切であることが観察された。

須恵器(第16図13~20 写真図版22)

いずれも破片で8点が出土した。器形を把握できるものはないが、器種には壺、蓋、甕、壺が確認できる。壺は底部破片が2点出土した(第16図15・18)。いずれも底部切り離しが回転ヘラ切りである。



第15図 出土遺物(1)



第16図 出土遺物(2)

表-2 遺物観察表

縄文土器

図番号	写真	器種	出土地点	調整・文様	備考
15-1	18-1	深鉢	SP93	口縁部刻目、外面單節LR	
15-2	18-2	深鉢	SP93	外面單節LR	15-1・2同一個体
15-3	18-4	鉢	SK2	外面單節LR	内面炭化物付着
15-4	18-3	深鉢	2区	外面單節LR	
15-5	18-8	深鉢	SB99EB5	外面單節LR	外面炭化物付着
15-6	18-7	深鉢	SB99EB5	外面單節LR	被熱
15-7	18-5	深鉢	SB99EB5	外面單節LR	外面炭化物付着
15-8	18-9	深鉢	SB99EB5	外面單節LR	外面炭化物付着
15-9	18-6	深鉢	SB99EB5		15-5～9同一個体

赤燒土器

図番号	写真	器種	出土地点	口径	底径	器高	調整・文様	備考
15-13	20-1	環	SP92	(114)	46	45	ロクロ、口縁下穿孔、底部回転糸切	RP1、内底面燐付着
15-14	20-2	環	SB99EB4	(130)	52	48	ロクロ、底部回転糸切	内外面被熱
15-15	20-6	環	SK28	(130)	[39]	ロクロ		
15-16	20-7	環	SK28	(118)	[44]	ロクロ		15-15・16同一個体？
15-17	20-4	環	SP24	(130)	[32]	ロクロ		
16-1	21-2	壺	SD100				内外面ヨコナデ	
16-2	20-5	環	SP89				ロクロ、口縁下穿孔	摩滅顯著
16-3	21-4	環	2区				ロクロ	
16-4	20-3	環	2区				ロクロ	
16-5	21-5	環	SP60				ロクロ	摩滅顯著
16-6	21-6	環	SK29				ロクロ	
16-7	20-8	環	2区				ロクロ	
16-8	環	SK90					ロクロ	
16-9	21-1	壺	SP89				外面平行タタキ、内面平行アテ	
16-10	21-3	壺	SP79				ロクロ	
16-11	壺	SP87					ロクロ	
16-12	21-7	環	2区	(50)	[9]	ロクロ、底部回転糸切		

須恵器

図番号	写真	器種	出土地点	調整・文様	備考
16-13	22-3	壺	SB99EB3	外面平行タタキ、内面平行アテ	
16-14	22-4	蓋	1区	ロクロ	
16-15	22-1	環	2区	ロクロ、底部回転ヘラ切	
16-16	22-5	壺	1区	外面自然輪・平行タタキ、内面青海波アテ	摩滅顯著
16-17	22-7	壺	2区	ロクロ、外面自然輪	
16-18	22-2	環	2区	ロクロ、底部回転ヘラ切	
16-19	22-8	壺？	SK61	内外面ロクロ・カキ目	
16-20	22-6	壺	2区	外面平行タタキ、内面平行アテ	

石器

図番号	写真	器種	出土地点	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
15-10	19-3	磨石	2区	124	82	54	585	
15-11	19-2	磨石	2区	119	94	53	748	
15-12	19-1	石核	2区	69	55	32	122.1	表面摩滅
18-10	剥片	SK53		96.5	36	10	22.7	
18-11	剥片	2区		27	20.2	7	3.7	
18-12	剥片	SP89		27.2	27.2	7.7	6.1	基部欠損
18-13	剥片	2区		24.3	6.6	4.6	2	火ハニ
18-14	剥片	2区		28.4	31	18.5	16.9	
18-15	剥片	2区		20	11	6.7	0.9	2次調整痕あり、tool剥片？
18-16	剥片	SB99EB26		27	15.2	3.9	1.7	

※ 重さの単位はg、他はmm。()の数値は推定値、〔 〕の数値は残存値

VI 調査のまとめ

中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区に係る柿里3号線農道改築工事に先立ち平成15年度に緊急発掘調査が実施された西山遺跡は、山形県東田川郡藤島町大字添川字西山に所在し、京田川と藤島川にはさまれた月山泥流台地の末端付近に立地する。遺跡の面積は約30,000m²で、今回は1,560m²を対象に発掘調査を実施した。出土遺物は整理箱で2箱である。以下に調査の結果を要約する。

遺構は調査区全体に分布するが、特に遺跡北端に近い2区北半に集中する傾向がみられた。この区域からはSB98掘立柱建物跡とSB99柱穴列が検出された。調査区の狭さから施設の全容を明らかにすることはできなかったが、比較的しっかりととした掘り方をもつ柱穴により構成されており、また、柱穴内や付近の出土遺物から平安時代の所産と推定された。そのほかの土坑、ピット、溝跡については、赤焼土器がまとまって出土したSP92およびSK28が平安時代の遺構と推定できるものの、多くは遺物の出土がなく、また、出土した場合でも2次的な流れ込みとみられるものが多いこと、遺構堆積土の土色変化が乏しいことなどから、時期認定が非常に困難である。これらについては、今後より詳細な検討が必要である。

遺物は縄文土器、石器、赤焼土器、須恵器が出土した。

縄文土器は、口唇に刻みのあるもののほかは地文のみが施文された小破片であり時期認定が困難であるが、いずれも比較的薄手であり、胎土や焼成の特徴から、後期または晩期に所属する可能性が看取される。

石器はいわゆるtoolが磨石2点のみと非常に少ない。石核および剥片も含め、出土状況から縄文時代のものと推定されるが、詳細は不明である。

平安時代の遺物は、須恵器と赤焼土器が出土したが、その比率は赤焼土器がかなり高い。形態が復元できたものは赤焼土器の壺2点のみで、内1点は頸部が穿孔された灯明皿と考えられる。いずれもやや深身で底部切り離しが回転系切の底径が小さい形態となる。器形の特徴および須恵器の出土数量が少ないとから、多くの遺物は概ね10世紀代の所産と考えられるが、回転ヘラ切りの底部をもつ須恵器壺破片も出土していることから、ある程度の時期幅も考慮しなければならないであろう。

引用文献

- 羽黒町教育委員会(1973)「玉川遺跡資料編！」
- 山形県教育委員会(1981)「郷の浜」遺跡発掘調査報告書|山形県埋蔵文化財調査報告書第50集
- 藤島町教育委員会(1981)「石矢跡発掘調査報告書」|山形県埋蔵文化財調査報告書第2集
- 山形県教育委員会(2001)「分布調査報告書(27)」|山形県埋蔵文化財調査報告書第201集
- 山形県教育委員会(2002)「分布調査報告書(28)」|山形県埋蔵文化財調査報告書第202集
- 山形県教育委員会(2003)「分布調査報告書(29)」|山形県埋蔵文化財調査報告書第203集
- 山形県教育委員会(2004)「分布調査報告書(30)」|山形県埋蔵文化財調査報告書第204集

写真図版



調査説明会



1区調査開始前の状況(南から)



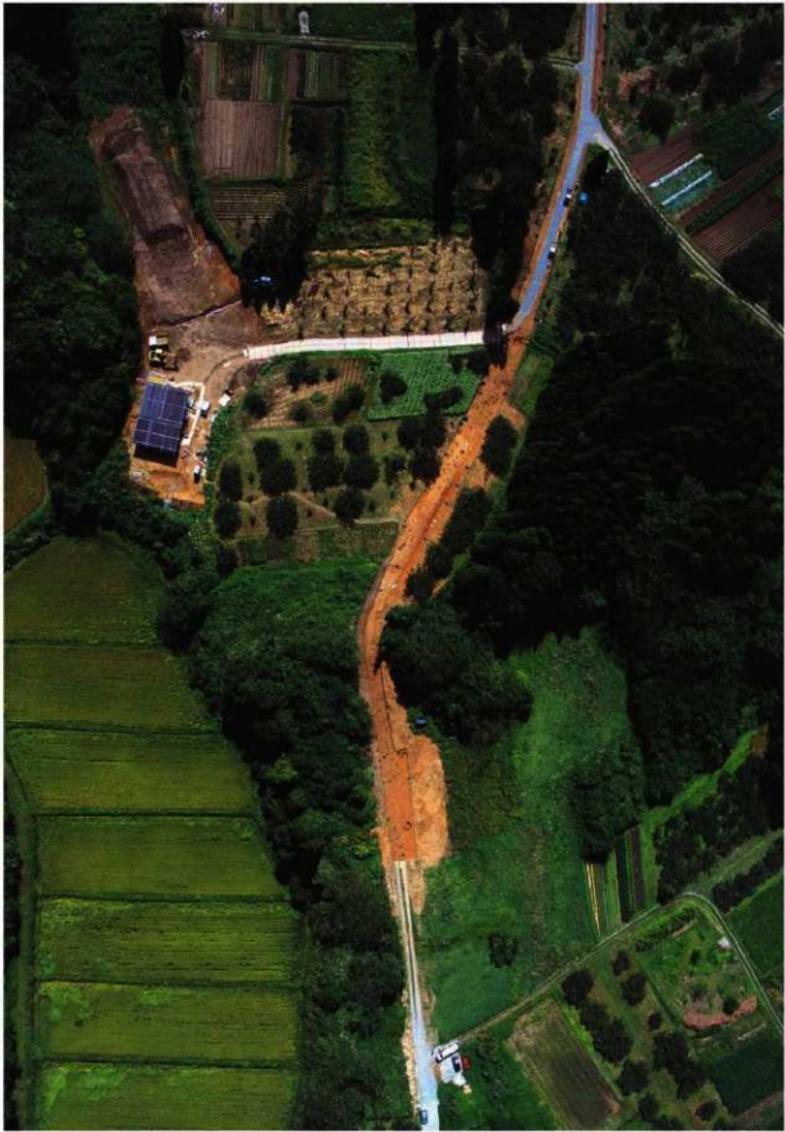
2区調査開始前の状況(北から)



道路近景(南から)



道路近景(北から)



調査区全景(上が南)



SB98調査状況(西から)



SB98 EB47土層断面(南西から)



SB98 EB49土層断面(南西から)



SB98 EB51土層断面(南から)



SB98 EB91土層断面(西から)



SB92 完損状況(西から)



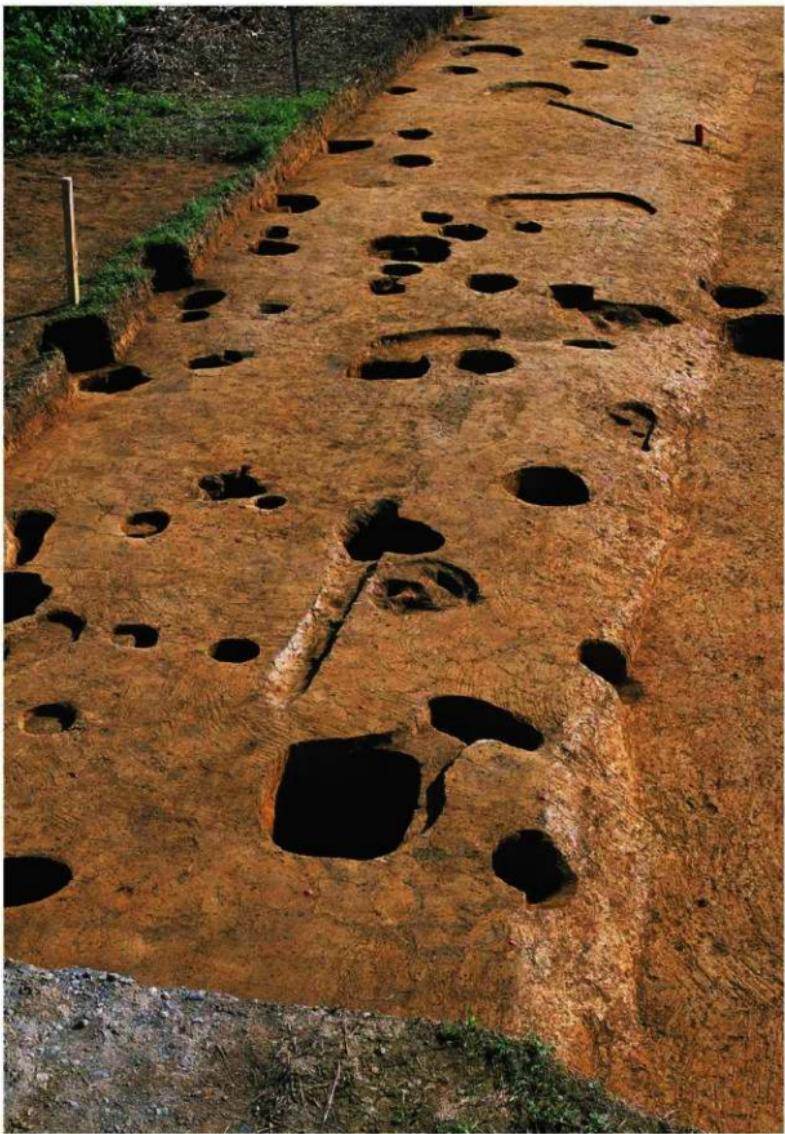
SP92 RP1出土状況(東から)



SB99 EB4土層断面(西から)



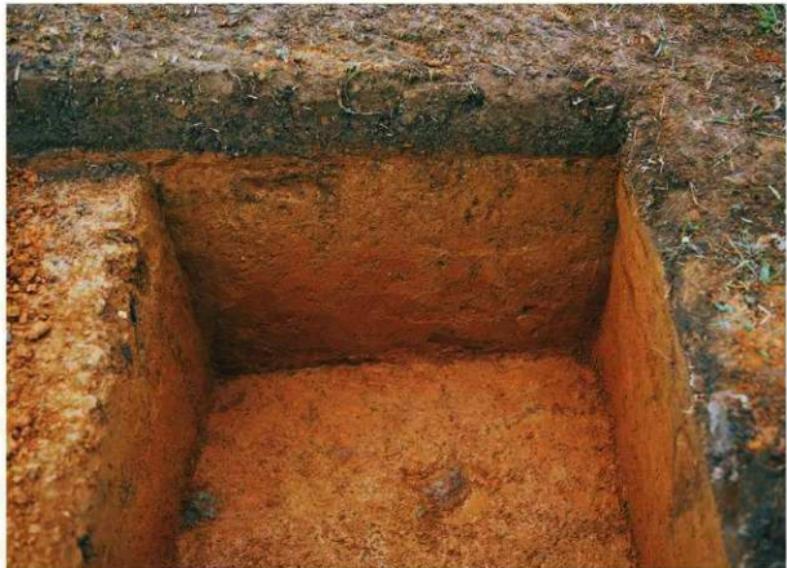
SB99 EB26土層断面(西から)



BS99完掘状況(北から)



1区TP2土層断面(東から)



2区TP4土層断面(東から)



TT4遺構検出状況(南西から)



TT5(北から)



TT6(南から)



TT8(南から)



TT9(北から)



TT10(北から)



TT11(北から)



TT12(北から)



TT13(南から)



TT14(南から)



布据作業



重機による表土剥ぎ取り



1区面整理作業



1区埋め戻し



2区面整理作業



遺構精査



記録作業



2区埋め戻し



1区南半全景(南から)



1区北半全景(北から)



2区南半全景(南から)



2区北半全景(北から)



2区27・28—38～41区完振状況(上が南)



2区26・27-35~37区実機状況(上が南)



2区26—32～34区実機状況(上が南)



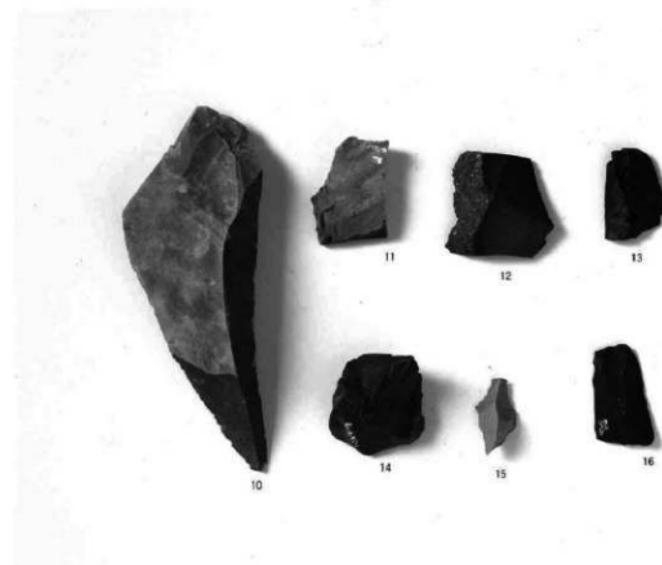
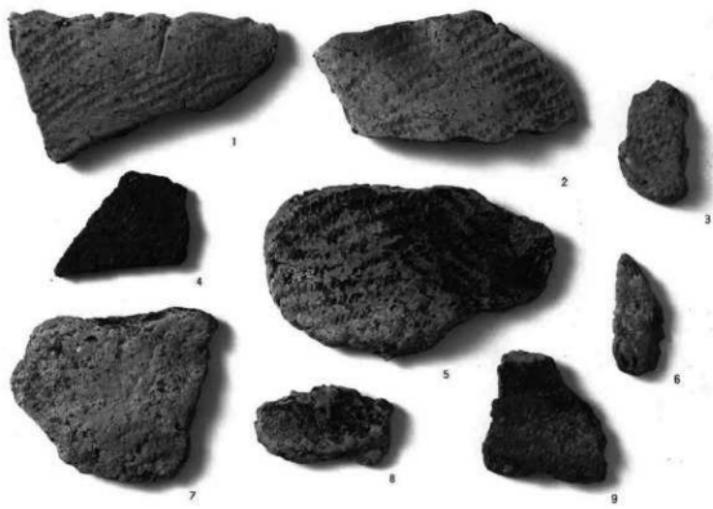
2区17~20-22~24区実播状況(上が南西)



2区北端拡張区実掘状況(南から)



2区北端拡張区実掘状況(北から)



縹文土器・削片



石核・石器



1

2



3

4

5

6

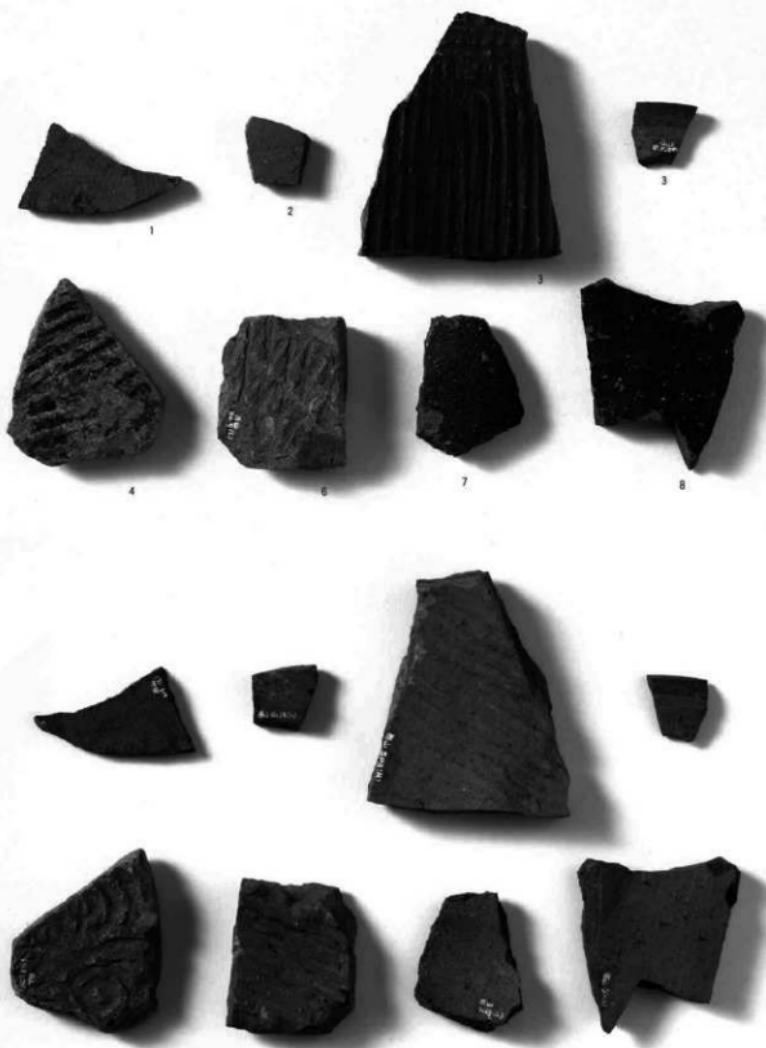
7

8

赤燒土器(1)



赤燒土器 (2)



須惠器

報告書抄録

ふりがな	にしやまいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	西山遺跡発掘調査報告書							
圖書名								
卷次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第137集							
編著者名	黒坂雅人 小林 啓							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2005年3月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西山遺跡	山形県 藤島町 大字添川 字西山	6423	1652	38度 44分 14秒	139度 57分 17秒	20030821 20030926	1,560	中山間地域総合整備事業ふじの里東部地区
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
集落跡	平安時代	掘立柱建物跡 柱穴列 土坑・ピット	1 1	赤焼土器 須恵器			平安時代の集落跡。 掘立柱建物跡1棟と 柱穴列などを検出。 遺物では、ピット、 柱穴などから赤焼土器 が出土。	
							(総出土箱数: 3 箱)	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第137集

西山遺跡発掘調査報告書

2005年3月28日発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号
電話 023-672-5301

印刷 株式会社アサヒ印刷
〒990-2251 山形県山形市立谷川2丁目486番14号
電話 023-686-4331